

中期計画
(2022～2027)

中学部
責任者名: 中学部長

【フェーズⅢ・3年間の運営方針】 (2025～2027年度)	【フェーズⅢ・3年後のありたい状態】(2027年度)
1. 人材育成、教育の方針 ＜人材育成の方針＞ 関学スピリットを軸とする者を育てる 1. ”Mastery for Service”を体現する世界市民の“卵” 2. 人の痛みの分かる共感性に富み「感謝・祈り・練達」を心得る者 3. 高等部・本大学で中核となる者 4. 多様性の社会を生きる生涯アクティブラーナーの基礎作り ＜教育の方針＞ キリスト教主義に基づく全人教育を実践する 5. 一人ひとりの存在価値の尊重 ～人を全てそのままに 6. 心と体と知のバランスよい育成 ～人の全き成長を 7. 「師弟同行」～人が人を育てる 8. 「Kwansei コンピテンシー」の幹の涵養 ～向きあう姿勢(品位・誠実さ)・向きあう力(粘り強さ)・広がる心(共感性・多様性)・確かな学力(ICT 機器の活用を通して)	＜2027年度のありたい状態＞ 1. 当該諸方針への理解が教員間で深まり共有され、意識されている。 2. 「Kwansei コンピテンシー」の幹が涵養され、関学スピリットを軸とする生徒が育っている。 3. 本大学生(OB/OG 含む)による学習や諸活動でのサポートを得ながら、左記の全人教育が実践されている。 4. 学力三要素(知識・技能/思考力・判断力・表現力/学びに向かう力)が養われている。 5. 高等部への進学者数が高位安定している。
2. 生徒獲得の方針 関学ファンを創生し獲得する 1. 入試の内容の継続的見直し 2. オープンスクールや学校説明会での訴求力向上 3. 高等部との広報連携の強化、及び高中一体の訴求力の向上 4. 初等部への中学部広報の継続	＜2027年度のありたい状態＞ 1. 一般入試の倍率が2倍程度で維持されている。 2. 学校の特色が効果的に伝わるオープンスクール等が実施されている。 3. 説明会等において高中教員が互いの学校について十分に説明できる。 4. 初等部からの推薦入学者数が高位安定している。
6. 中期的な課題 ＜フェーズⅢ(2025～2027)＞ 1. ICT教育の推進と主体的学びの促進 2. 教員の労働環境の改善を通じた、ワークライフバランスの適切化 3. 初・中・高の連携の更なる進展	

【重点施策】

テーマ1:総合学園で学ぶ中学生にとってのキャリア教育（講演会や資格取得にむけた外部講座）	
種別(該当するものを○): <u>新規取り組み</u> ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	総合学園で学ぶ中学生として、大学や社会、世界を見据えて取り組めるようキャリア教育を展開する。ロールモデルとして卒業生(大学生、社会人)がキャリア講座を担当し、学生時代の学びと将来とのつながりを実感してもらう。社会や世界につながる学びとして、資格や検定試験の講座を開設する。教科の学びにしばられない資格や検定試験の講座を希望者に展開し、自分の可能性を拓き、高い意欲と能力を持つ生徒が更に向上できる機会を設ける。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	ロールモデルとしての卒業生のキャリア講座により、生徒が目先ではなく未来に向けたビジョンを持ち、将来に向けた学びに取り組むようになる。その受け皿として、社会や世界につながる資格や検定試験の講座を受講する生徒が増えるようになる。
テーマ2:国際交流	
種別(該当するものを○): <u>新規取り組み</u> ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	・外への国際化として、教員引率型の海外研修とともに、外部業者主体のプログラムを開発し、安心して海外渡航できるプログラムを紹介していく。 ・内なる国際化として、大学の国際連携機構(CIEC)と連携し、中学部生と大学留学生の交流会、大学留学生の授業への参画を制度化する。授業での双方向的な議論を通して、異文化を知る、またそれを理解し、受け入れる意識を育む。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	異文化体験を多く積むことで、互いの違いを認識し、それぞれを受け入れる態度や精神を涵養する。またどの場所であっても、自分のことや考えを正しく相手に伝える力を養う。
テーマ3:探究型学習への移行	
種別(該当するものを○): <u>新規取り組み</u> ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	読書科(総合的な学習の時間)や技術・家庭科(技術分野)を中心に、長年取り組んできた探究型学習を進化させる。生徒一人ひとりの学びを支援するため、個別カンファランスを中心とした個別最適化に努める。これらの授業においては、分割授業やティームティーチング(TT)によるきめ細やかな指導体制の導入を検討する。そのメソッドを、他教科や学校行事、クラブ活動などでも援用する。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	生徒一人ひとりの個に応じた探究型学習がおこなわれることにより、探究心が培われ、課題解決力、情報活用能力が向上する。「自立した探究者」が育ち、高校での「探究」、大学での「研究」を主導する。
テーマ4:働き方改革に伴う諸施策（学校行事やクラブ活動の見直し）	
種別(該当するものを○): <u>新規取り組み</u> ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	・学校教育の一環としてクラブ活動を継続実施していくにあたり、教員の労働時間削減のために、希望するクラブに対して部活動指導員を適宜配置したり、高等部との合同活動を模索したりするなど、検討を進めていく。 ・天候に左右されないアリーナでの体育大会実施を模索するなど、教員の事前準備・当日運営の負担を軽減するための方策を検討していく。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	・職務としてのクラブ活動に対して、労働時間削減にむけた具体的な施策を実現させることで、教員の労働時間削減を図る。 ・体育大会運営上の不確定要素(熱中症対策や雨天による順延発生といった天候や保護者対応)を環境設定により省くことで、教員の負担軽減を図る。
テーマ5:初・中・高の連携の更なる進展 ～教科連絡会等を通じた学力観の擦り合わせとカリキュラムの連携、高中教員の人事交流の活性化～	

種別(該当するものを○): 新規取り組み ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	一貫教育・学校間連携については、推薦のあり方(千里国際含む)や保護者対応についても議論を深める必要がある。初等部や高等部との議論も必要で、これは教育連携会議の部会の中で相互理解を進めながら、課題解消につなげたい。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	一貫校としてより深い生徒理解と緊密な連携をとることで、課題の共有と克服が継続的に行われ、どの学校段階においても、共通した認識を持ち、同じ対応がとれるようになる。
テーマ6:「大学生メンター制度」の発展	
種別(該当するものを○): 新規取り組み ・ 事業削減	
具体施策 (取り組み内容)	長期戦略テーマ「特長ある一貫教育の創出」に伴う実施計画「大学生メンター制度の導入」に基づき、学力保障を目的とした成績不振者への支援施策を行う。教育連携部とともに、高等部における導入成果を踏まえ、2023年度より中学部においてもブレーンヒューマティー社への業務委託形式にて導入を開始した。
期待される成果 (取り組みによりめざす姿)	ロールモデルとしての大学生メンターとの交流を通じて、学習に対して前向きな姿勢を持ち、学習習慣の定着を図る。中学部教員と大学生メンターの密な連携により、教員の負担軽減と、生徒一人ひとりに応じた柔軟な指導の実現を目指す。

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- ① スクールモットーの認知度・共感度
- ② メンター制度対象生徒へのアンケート調査
- ③ 働き方改革の進捗度合い
- ④ 一般入試倍率
- ⑤ 教育方針や課題の共有、および課題克服による教育の質の向上
- ⑥ -1 生徒のアンケート調査 改訂項目「授業や様々なプログラムを通して異文化に興味を持った」の肯定割合
- ⑥ -2 生徒のアンケート調査 既存項目「英文法が身につく、英語の四技能の活動ができている」の肯定割合
- ⑥ -3 教員対象のアンケート調査 既存項目「人権や平和に関する生徒の感性と知性を養っている」の肯定割合
- ⑦ 教員対象のアンケート調査 既存項目「高等部と適切に連携している」の肯定割合
- ⑧ 生徒のアンケート調査 既存項目「図書館を活用した読書科教育、総合的な学習や探究型学習が充実している。」の肯定割合
- ⑨ 生徒へのアンケート調査 キャリア教育を通して、将来の進路に対する具体的なイメージを実感できたと感じる生徒の割合

【2024年度までの実績を踏まえた計画の進捗と振り返り】

<1. 人材育成、教育の方針>

1. 諸方針への理解が教員間で深まり共有されている。
2. 「Kwansei コンピテンシー」の幹がより涵養され、関学スピリットを軸とする生徒が育ち、その意識が高まっている。
3. 学習や諸活動でのサポートを得、関学スピリットを軸とする生徒が育ち、意識が高まっているが、新たな人や機会を模索する必要があると感じる。
4. 今後も学力三要素をさらに養うよう努める。
5. 今年度も高位安定を目指す。

<2. 生徒獲得の方針>

1. 一般入試の倍率を維持できるよう広報活動や学校改革を進める。
2. 今年度は昨年度より主催学校説明会を増やし、中学部の魅力を発信する機会を作っている。
3. 探究活動など高等部の強みを説明しているものの十分とはいえない部分もあるので、高中教員がともに互いの学校について説明できるよう連携していく。
4. 今年度も高位安定を目指す。

<3. 中期的な課題>

1. 一般入試の倍率を維持できるよう広報活動や学校改革を進める。
2. 今年度は昨年度より主催学校説明会を増やし、中学部の魅力を発信する機会を作っている。
3. 探究活動など高等部の強みを説明しているものの十分とはいえない部分もあるので、高中教員がともに互いの学校について説明できるよう連携していく。
4. 今年度も高位安定を目指す。

<4. 一貫教育学校間連携について、昨年度の活動実績と次年度の予定>

私立中学である関西学院中学部は建学の精神を持ち、その精神のもと、多くの生徒を育んできた。今後も中学部は安定した環境と公立学校ではできない充実した学びの機会を作り、他の私立中学の中でも選ばれる学校でなければならない。そのためには個別的な学びとこれまで中学部が培ってきた教育の融合がより必要になってくる。

個別的な学習については、中学部では読書科の授業がこれまでも探究型学習に取り組んできたが、キャンプ等の野外活動や修学旅行も探究型学習に移行していく。

大学生や社会人となった卒業生から話を聞くなどキャリア教育にも取り組む。また、カリキュラムの改編を検討し、土曜日に外部講師を招いた資格講座を希望者に展開し、自分の可能性を拓け、高い意欲と能力を持つ生徒が更に向上できる機会を設けたい。ジェンダー理解にも取り組み、多様性の精神と人権意識の涵養に努める。ジェンダーバイアスをなくすように、まずは教員の研修や PTA 集会での講演会から始める。国際交流として、学校主催の短期留学プログラムを展開しているが、働き方改革の観点からも、これ以上の教員引率型プログラムは展開できない。よって外注プログラムの中で、安心して海外渡航が可能なプログラムを紹介していく。また、海外での経験だけではなく、大学の国際連携機構(CIEC)と連携し、生徒たちと留学生の交流会ならびに授業での議論などを通じて、異文化を知る、またそれを理解し、受け入れる意識を育む。入試改革にも取り組み、男女比撤廃に伴い、より優秀で関学で学びたい生徒を今後集めていく。

一貫教育・学校間連携については、推薦のあり方(千里国際含む)や入試広報、保護者対応についても議論を深める必要がある。初等部や高等部との議論も必要で、これは教育連携会議の部会の中で相互理解を進めながら、課題解消につなげたい。

【2025年度】

教育連携部ができたことにより、教育連携会議や部会を通して各学校との対話や情報共有の機会が大幅に増えた。これにより、各校間の課題を認識し、課題の解決や解消に向けた話し合いの場が定期的に持たれるようになった。

今後も各校と課題解決のために対話を重ねていく。特に初等部との推薦入学制度の評価と検証を重点的に行う予定である。

取り組みの全体像(イメージ)

取り組みの全体像(イメージ)を図で表現ください

“Kwansei Grand Challenge 2039 長期戦略テーマ:「総合学園」の枠組み再構築及び特長ある一貫教育の創出”

